

## Webユーザビリティを取り入れた情報教育

兵庫県立西宮今津高等学校 佐藤 万寿美

3年生「情報コミュニケーション」では、教科間連携を実施している。「ユニバーサルデザイン&アクセシビリティ (UDA) プロジェクト」とは、障害者、外国人、初心者から高齢者まで、誰でも使いやすいWebユーザビリティの研究である。地域のUD情報を取材し、アクセシビリティを配慮したWebによる情報発信など、Webサイトを実践の場とした学習活動を展開する。日本ではまだまだおこなわれているWebのUDの指導には、デザインの専門家等の協力が必要不可欠である。大学や専門家、養護学校、韓国の高校との連携を図り、インタラクティブな交流学習を進めるために、テレビ会議システムで研究室等と教室を結んで実践を展開している。

### 研究目的

#### (1) 街角のユニバーサルデザイン情報の収集と発信

#### (2) 弱者に優しいWebのユーザビリティの研究

インターネットは新しいメディアであり、障害を持つ人、特に視覚障害をもつ方にとって、Webは新しいコミュニケーションの道具として大きな意味を持つ。例えば、音でアクセスする視覚障害者が増えている。今まで読めなかった新聞や雑誌が読める利用になり、より多くの情報が入手できるようになった。「ウェブアクセシビリティの研究」とは、高齢や初心者「使いやすい」ユーザビリティと、障害を持つ方に「利用可能な」アクセシビリティを兼ね備えた、Webユニバーサルデザイン (UD) による「誰にでも見やすいWebサイトの構築」を目的とする。具体的には、障害者だけでなく、外国人、初心者から高齢者まで、可能な限りの見る側の立場を配慮したWebデザインの研究である。日本ではようやくバリアフリーという言葉が定着してきたが、誰もが見る可能性のあるWebサイトほど「ユニバーサルデザイン」の考え方が必要である。今年度は昨年までの実践にある「車椅子トイレマッププロジェクト」をトイレだけでなく地域の「ユニバーサルデザイン」情報を取材し、地域へ役に立つ情報を発信するとともに、さまざまに人々が利用できるような「誰にでも見やすいWebサイトの構築」の2つをテーマとし、Webサイトを実践の場とした学習活動を目標とする。フィールドワークから制作発表・情報発信まですべて授業の中で生徒が行い、養護学校や地域の住民、韓国の高校との交流を深め、相手の立場や文章表現、多言語化やモラル・マナーを考え、社会に参画する態度や能力を育成している。日本ではまだまだおこなわれている「Webのユニバーサルデザイン」の指導には、とくにデザインの専門家の協力も必要不可欠である。このように「アクセシビリティ」をテーマに今までのWebサイトの情報バリアフリー化に取り組むなかで、「高大連携」では「コンピュータデザインと心理学」を研究テーマとする大学や専門家との連携を図り、また国際交流ではソウル市内の高校との交流の中で多言語化の研究を行い、交流学習ではいずれもインタラクティブな共同研究を進めるために、テレビ会議システムや掲示板で研究室等と教室を結んで「研究室の窓」を開設し、研究活動を展開する。